

山根常男先生

山根常男先生

金丸由雄

山根先生は、本学に昭和52年に着任されて以来、学部及び大学院で教鞭をとられてこられた。

先生の家族社会学者としての御業績と名声は、国際的であって、日本一国に

局限されたものではない。先生は常日頃から、日本の社会学者の活動が、余りにも国内に限られていることを残念に思っているが、それは、例えば、昭和40年代のキブツの研究から、極く最近のギリシア家族の实地研究などの、一連の御活躍の上に立っての御述懐であられよう。

由来日本の偉い学者には、大きく分けて二つのタイプがあるように思われる。一つは自分の研究を、自分の弟子達の協力を基に行うものであり、他は、他の協力の基に行うことはあっても、あくまでも自分一箇の仕事として行うものである。私が見るところ、前者は必然的に、研究者としてよりも組織者、更にその組織の支配者となって行く傾向があるのはまぬがれない。これに対して後者は、自己の研究課題を自分個人に課せられた使命として、終生その探究に努めるであろう。我が山根先生は、正しく後者に属される研究者であられて、その証拠に、先生はいまだに、第一線の現役調査者にして、理論家であられる。

先生は、本学の社会学専攻の主任として、二度に亘り重責をはたされた。先生に依って、今日の社会専攻の基礎は固められ、進むべき方向が打出されたのである。

先生は又、御自分の院生を、親切にはあるが厳しく指導されて来られたが、その成果は、先生御指導の研究者が数名、いくつかの大学の専任教員として現在活躍されていることに如実に示されている。

先生は又、日本社会学会の有力メンバーとして、理事及び監事として活躍された。

誠に我々後進にとって、依って以って、鑑とするべきは、山根常男先生であられる。

業 績

1917年 高知県に出生

1940年 東京帝国大学文学部社会学科卒業

同 年 中華民国北京国立新民学院講師

- 1947年 名古屋市立女子専門学校教授
1949年 岐阜大学助教授
1951年 南山大学助教授
1959年 大阪市立大学教授
1977年 駒沢大学教授

業 績

著 書

- 1 キブツ——その社会学的分析
1965年 誠信書房
- 2 キブツの記録
1966年 誠信書房
- 3 現代社会学の基本問題（編著）
1966年 有斐閣
- 4 家族の論理
1972年 垣内出版
- 5 家と現代家族（編著）
1976年 培風館
- 6 テキストブック社会学（7）福祉（編著）
1977年 有斐閣
- 7 ゆれ動く現代家族（監修）生命保険文化センター編
1984年 日本放送出版協会
- 8 家族と人格——家族の力動理論をめぐって
1986年 家政教育社
- 9 家族と福祉の未来——現代家族と社会福祉への提言（監修）
1987年 全国社会福祉協議会

10 家族と結婚——脱家父長制の理論を目ざして

1990年 家政教育社

訳 書

- 1 ストライキ (訳) E・T・ヒラー著
1950年 創元社
- 2 精神分析の基礎理論 (共訳) チャールズ・ブレナー著
1965年 誠信書房
- 3 家族の社会学理論 家族研究リーディングズⅠ (編訳著) タルコット・パーソンズ他
1971年 誠信書房
家族と結婚——その比較文化的解明 (共訳) ウィリアム・ステューヴンズ著
1971年 誠信書房
- 5 家族の診断と治療 家族研究リーディングズⅡ (編訳著) ジョン・P・スピーゲル他
1975年 誠信書房
- 6 エディプス・コンプレックス——通文化的実証 (共訳) ウィリアム・ステューヴンズ著
1977年 誠信書房
- 7 精神分析の理論 (訳) チャールズ・ブレナー著
1980年 誠信書房
- 8 家族の社会学と精神分析 家族研究リーディングズⅢ (編訳著) ローレンス・S・キュービー他
1982年 誠信書房
- 9 家族と家族療法 (監訳) ザルヴァドール・ミニューチン著
1983年 誠信書房
その他論文多数